地域(連携)課題	
コロナ禍における課題	
	<p>・各機関にて感染拡大防止対策は講じていたが、感染を疑う方の把握が難しい。偏見、差別や誹謗中傷への配慮等、個人情報保護の観点から十分に情報共有できないこともあり、通常の連携が機能せず、現場に混乱を招いた。</p> <p>・介護保険事業所利用者に陽性患者が発生した場合、職員が罹患した場合、事業所内でクラスター感染が生じた場合、濃厚接触者へ対応する場合等、様々な場面で数々の課題に対応を迫られた。詳細の状況・方針が把握できるまでは、自宅待機を求められることが多く、利用者へ提供するサービス・支援にも影響を及ぼした。また、市、三師会、医療機関、介護保険事業所等各機関が取り組んだ感染症対策等も、十分に情報共有できなかったと感じる。</p> <p>・今般のコロナ禍において、すべての機関が対応に苦慮したと考えられる。可能であれば関係機関全体で振り返り、課題整理・対応方法の工夫等に繋げることができるような機会を得たい。</p>
	<p>・長期にわたる自粛生活のため、高齢者のフレイルが進行したり、精神的なストレスが高まっている状況が伺える。地域との関係が薄い方は、更に閉じこもる傾向が見受けられる。不安を抱えていても近隣住民には打ち明けにくく、薬局等関係機関に日々の生活の相談をする方もいる。また、民生委員等、地域とどう連携を図っていくかも課題。</p> <p>・今年度は感染拡大防止のため、研修会・連絡会等、関係機関が対面で集まる機会が減少し、多職種連携の機能が十分果たせなかった。このような状況の中でも、オンライン活用による情報共有、意見交換等、連携していく場を構築していく必要がある。</p>
関係機関の役割・機能等に関する課題	
	<p>認知症の方は金銭管理に課題を抱えることが多々あり、それぞれの職場・職種でその対応に苦慮している現状を共有できた。また、適切な相談窓口がわからない場合や個人情報保護の観点で連携しにくい状況があると把握したため、解決に向けて検討していく。</p>
	<p>民生委員の役割や活動内容について、医療機関の専門職が知る機会が乏しい。また、社会福祉協議会CSWが、様々な問題を抱えた対象者の相談に乗り、社会資源につなぐ等の活動をしていることについて、広報がまだ十分にできていない。今後、周知する機会を設けていく。</p>